

全体的な事項

主担当部：戦略企画部、総務部

	意見	当初予算要求への反映状況等
1	●指標に関しては、今期はアウトプット型のもも幾つか見られたが、次期においては、アウトカムやインパクトを指標化するように希望する。	
2	●県民指標と県の活動指標が体系化されていない。 (⇒県の活動指標がすべて達成しているのに、県民指標が達成できていないということは、両方がリンクしていないことを意味する。)	・みえ県民ビジョン第二次行動計画(仮称)の策定にあたり、数値目標については、県民の皆さんから見た成果をあらわす指標(アウトカム)となっているのか、県民の皆さんから見てわかりやすいか、また県民指標と活動指標の関係が目的と手段の関係となり、施策等のめざす姿や目的を適切に反映しているか、施策等の進捗状況をより正確に評価できるか、などの観点から見直しに努めました。しかしながら、全ての観点に合う指標を設定することは難しい場合があり、総合的に判断し、より適切な指標を設定いたしました。
3	●計画を立てるとき、通常なら県民指標を固めるためには、十分議論してから、県民指標を達成できるためにはどういう事業が求められるかを一から考えて調整していくのが自然な流れだと思う。そのような流れで立てているとは思えない。 (⇒行政の仕事には、法律で定まっている、ある意味ルーチンに近い事業があるため、県民指標に直接関係ない場合もある。もし、そうであれば、あえてそういう業務はルーチンとして粛々と進めるようにして、県民指標と県の活動指標を目的・手段・合理性にのっとり立てることを実施してみる必要があるのではないか。)	・数値目標の見直しにあたっては、これまでの県議会や有識者懇話会、パブリックコメントにおけるご意見、事業の推進のなかでの審議会等における有識者のご意見、他県の状況等をふまえるとともに、複数の指標から検討し、その指標が適切かどうか、全庁的に議論を重ねてきました。
4	●次の総合計画を策定する際、施策—基本事業—事務事業にかかわる県民指標と県の活動指標の策定過程に、他部署、もしくは、外部の専門家の意見を取り入れてその妥当性を検討することはできないか。	・こうした議論のプロセスについて整理し、引き継いでいくとともに、数値目標の設定の意図がわかるように、第二次行動計画(最終案)の「別冊資料編 数値目標一覧」において、目標項目の選定理由、目標値の設定理由を詳しく記載しています。
5	●次の総合計画においては、担当者が変わっても誰が、どのような意図で、県民指標と県の活動指標を設定したのかを残してほしい。また、策定の際、どのような議論を行ったかについても、明示化してほしい。	・引き続き、ご意見をふまえ、第二次行動計画の策定において、より効果的なPDCA(計画・実行・評価・改善)サイクルにつながるよう努めていきます。
6	●マネジメントの立場から考えると、施策全般の評価結果を次年度の予算査定課程に何らかの形で反映させることはできないのか。 (⇒評価の結果を予算査定に反映できることで、一連のPDCAサイクルがより簡素化できることが期待できるとともに、評価そのものに対する職員のモチベーションアップにつながる可能性があると考えられる。)	・評価結果を踏まえた進展度が「C」「D」となった施策については、その施策を構成する事務事業について当懇話会で外部有識者から意見を聴取し、その意見を踏まえて予算要求に反映させることとするなど、評価が翌年度の予算編成につなげる仕組みとなっていると考えておりますが、引き続き、行政運営の仕組みである「みえ成果向上サイクル(スマートサイクル)」が効率的・効果的な運用となるよう取り組んでいきます。